

欧文印刷株式会社

環境経営レポート

対象期間：2023 年度

(2023 年 4 月～2024 年 3 月)

作成日：2024 年 9 月 13 日

作成者：EMS 運用事務局

(品質保証室 大塚 弘)

1. 環境方針

私たちの環境方針

【 基本理念 】

欧文印刷株式会社は、地球環境の悪化を抑制するために、私たちにできる最善の手立てを講じます。

【 基本方針 】

私たちは、基本理念を踏まえ、以下の環境保全に関する行動指針に基づき、環境マネジメントシステムを構築、維持、推進し、環境目的及び目標を制定し、定期的な見直しを行い、かつ、全社員による継続的な改善に努めます。

1. エネルギーの無駄な消費および資源枯渇の抑制に努めます。
2. 業務に伴う産業廃棄物の発生の抑制に努め、リサイクルの向上を図ります。
3. 環境負荷の少ない材料・資材・副資材を積極的に採用します。
4. 環境に関する法規制および当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
5. この環境方針は、全社員および関連業務に従事する方々に周知させるとともに、一般に公開します。

2011年6月1日
代表取締役社長
和田 美佐雄

2. 本環境経営レポートの対象期間

2023 年度（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

3. 組織の概要

(1) 事業者名

欧文印刷株式会社

(2) 代表者名

代表取締役社長 和田 美佐雄

(3) 事業所所在地・連絡先

本 社

〒113-8484 東京都文京区本郷 1 丁目 17 番 2 号 TEL : 03-3817-5910 (代)

坂戸事業所

〒350-0214 埼玉県坂戸市千代田 5 丁目 1 番 14 号 TEL : 049-284-1954 (代)

(4) 環境マネジメントシステムの責任者

環境管理責任者 執行役員総務部長 安田 克実

連絡先 TEL : 03-3817-5910 (代)

運用事務局責任者 品質保証室部門長 大塚 弘

連絡先 TEL : 049-284-1954 (代)

(5) 事業内容

- 1) 商業印刷物・取扱説明書・出版印刷物の企画・翻訳・制作・印刷・製本
- 2) 金融・教育関連印刷物のオンデマンド印刷・製本
- 3) オンラインパブリッシング・サービスの開発、製造と販売
- 4) オリジナル商品の開発、製造と販売
- 5) ニスを使用したオフセット印刷による点字・触知図印刷物の制作・製造

(6) 事業規模（2024 年 9 月現在）

売上高：1,418 百万円（2024 年 3 月期）

	従業員数	敷地面積	延べ建築面積
本 社	62 名（内 パート 8 名）	476 m ²	1,837 m ²
坂戸事業所	53 名（内 パート 18 名）	6,146 m ²	4,457 m ²

(7) “環境保全活動” の経歴

2001 年 10 月 環境方針制定

2001 年 10 月 環境マニュアル制定

2002 年 3 月 ISO 14001 認証登録

2011 年 3 月 ISO 14001 第三者認証登録取り下げ（EMS は継続維持）

2013 年 4 月 エコアクション 21 へのキックオフ（第 1 回経営協議会にて）

2015 年 2 月 エコアクション 21 認証登録

現在に至る

4. 対象範囲

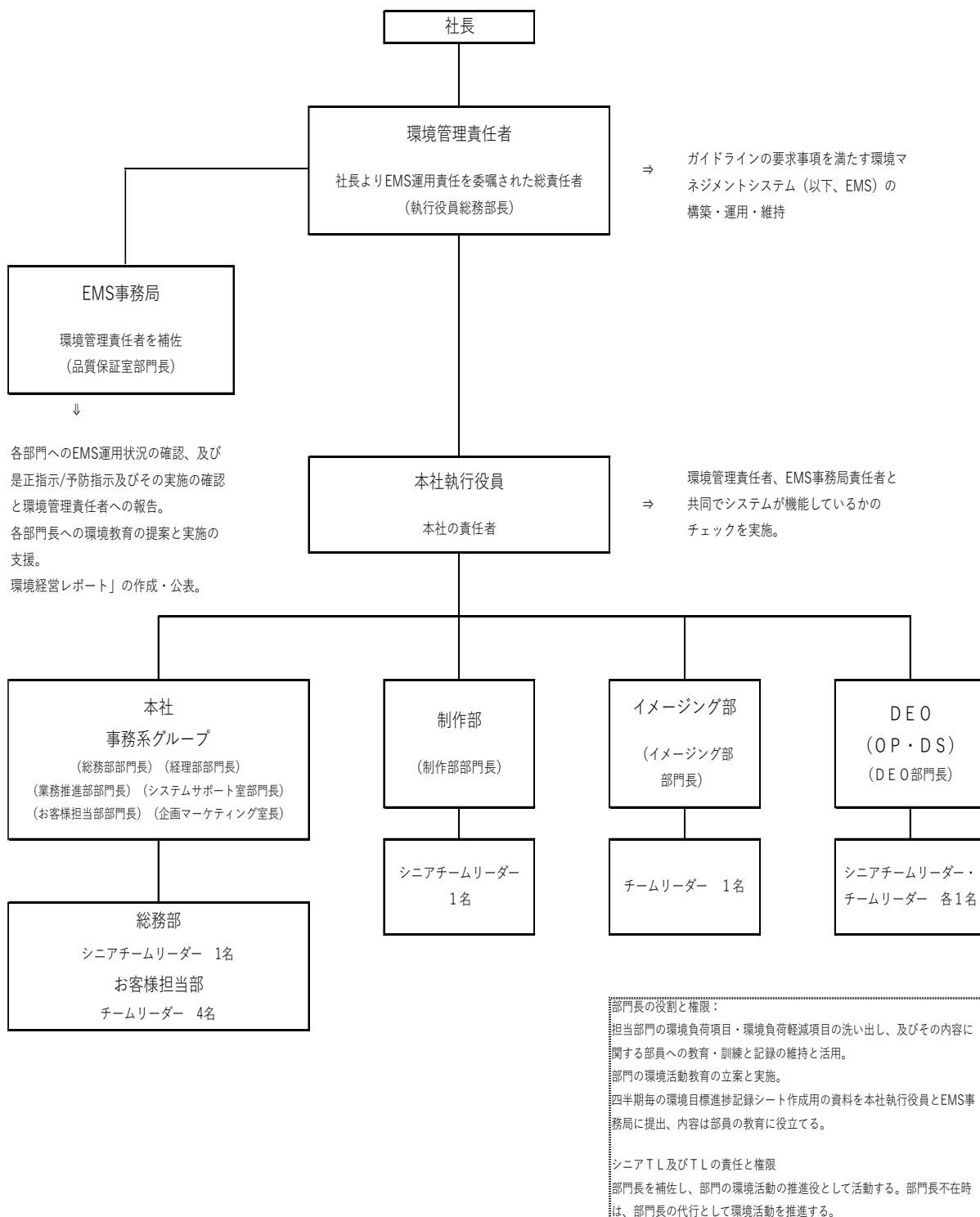
- 対象事業所：本社、坂戸事業所
- 事業活動：印刷・製本、ステーションナリーの製造、翻訳

全組織への環境活動の拡大

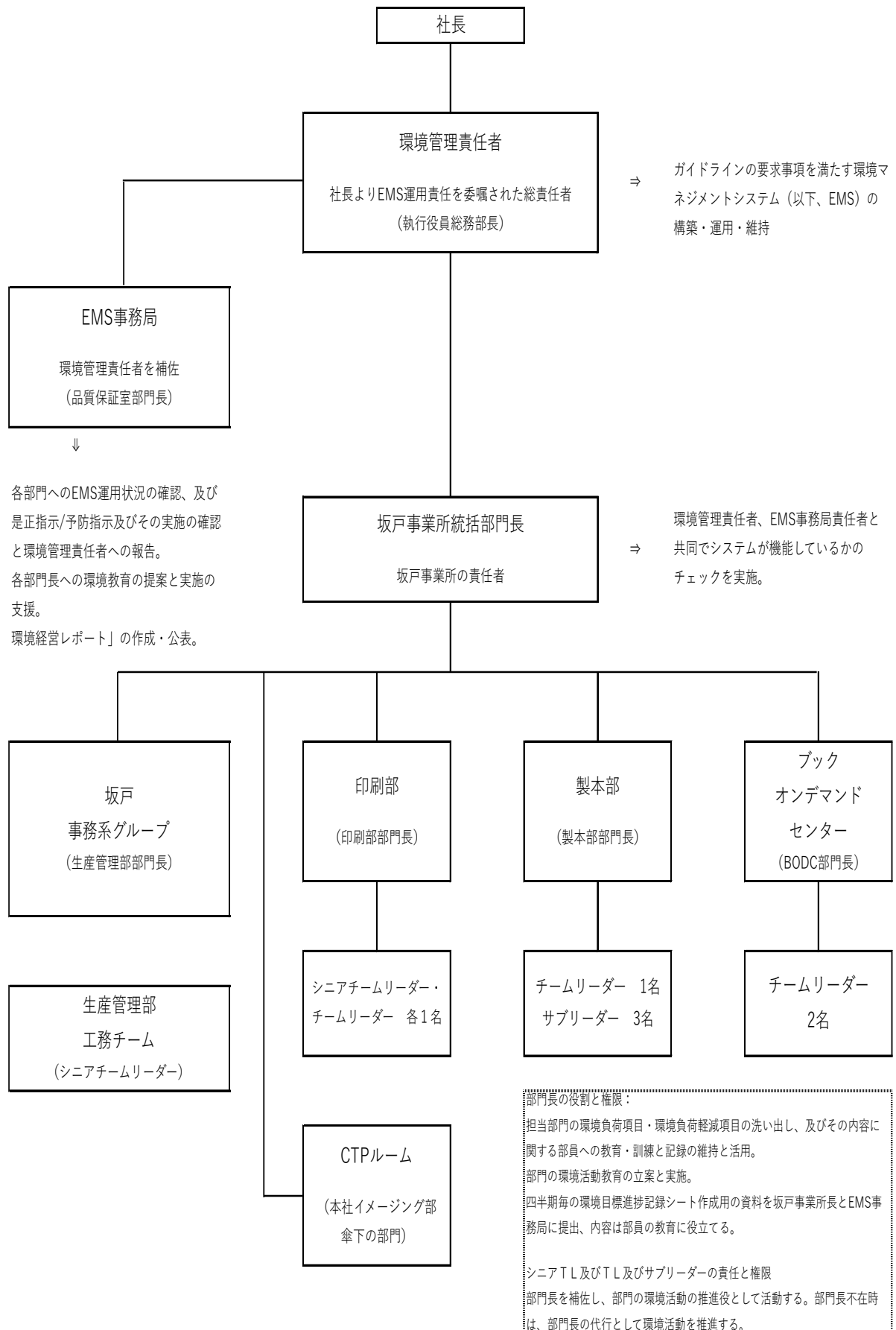
本社を含めた全組織への認証範囲の拡大は2025年2月の5回目の更新審査において実行致します。本環境経営レポート(2023年度)は、その準備期間として本社を含めた全社の活動レポートとしました。

5. 実施体制

環境マネジメントシステム本社組織図



環境マネジメントシステム坂戸事業所 組織図



6. 環境目標の実績と中期計画及び次期環境目標

◆ 2023 年度環境目標

(1) CO₂ 排出量原単位 (CO₂ 排出量 kg/加工高) を前年度比 0.1 削減

【中期目標】2025 年度末までに原単位 0.3 の削減

- 対象期間：2023 年度 4 月～3 月（対 2022 年度 4 月～3 月）
- 電力の摘要係数《両年度共に係数；0.519 を採用》
- 実績：全体 0.18 増加（本社：+0.07、坂戸事業所：+0.21）⇒未達成

		② 総CO ₂ 排出量 (kg)	削減比	① 加工高 (千円)	原単位 (②/①)
本社	2023年度	102,153	-9.40%	¥248,912	0.41
	2022年度	112,752		¥328,169	0.34
坂戸事業所	2023年度	709,820	-3.91%	¥478,927	1.48
	2022年度	738,680		¥581,868	1.27
全体	2023年度	811,973	-4.63%	¥727,839	1.12
	2022年度	851,432		¥910,037	0.94

目標は未達成となりました。会社全体のCO₂排出量は前年度対比で 39,459kg (▲4.6%) 減少しましたが、加工高が 182,198 千円 (▲20%) と大幅に減少したことがCO₂排出量原単位の増加の要因です。内訳を分析すると、CO₂排出量は本社が▲9.4%、坂戸事業所が▲3.9%でした。加工高は本社が▲24.2%、坂戸事業所が▲17.7%の減少です。

2023 年度から初めてCO₂排出量の削減目標に「加工高」という原単位を組み込み、更に本社を含めた年度目標と中期目標を設定しましたが、売上が前年度を下回る状況化で目標は大きく未達となってしまいました。2024 年度は 2023 年度目標と同じ「CO₂排出量原単位 (CO₂排出量kg/加工高) を前年度比 0.1 削減」を目標に取組んでいきます。

● CO₂ 排出係数について

電力は契約先であるサミットエナジー係数を、LNGは (社)日本印刷産業連合会推奨の係数と算式を適用しています。

- ・電力：使用量(千kWh/1000) × 排出係数(0.519)
- ・LNG：使用量(t)/1000 × 単位発熱量(54.6) × 排出係数(0.0135) × 換算係数(3.6667)

● CO₂ 排出量削減への主な取組

- ・作業を集中させることによる機械稼働時間の短縮（坂戸事業所）。
- ・昼休み/休憩時間に於ける工場構内と事務所内の消灯徹底（坂戸事業所）。
- ・作業者がいないエリアの空調機器停止(坂戸事業所：印刷部構内と CTP ルームは除く)。
- ・下期に用紙倉庫並びに製本部の空調を更新（坂戸事業所）。
- ・会議室利用後の照明及び空調 off の徹底（本社）。
- ・残業時間の人がいないエリアの照明及び空調 off（本社）。

(2) 産業廃棄物排出量の前年度比 10%削減：

【中期目標】2025 年度末までに 20%の削減

【坂戸事業所】 達成

● 実績：15.8%削減

2023 年度：12,003 kg、2022 年度：14,247 kg、前年度対比で 2,244 kg削減

2023 年度の産業廃棄物量は、前年度比で 15.8%削減となり、目標達成できました。

2023 年度、廃アルカリ・廃酸・廃油など製造工程で排出される産業廃棄物は前年度対比約 16%削減できました。廃プラや廃インキなど、仕事量の増加によって発生する廃棄物量は増加したものの、2022 年度に行った規格外パレットの処分など、通常発生しない廃棄物が 2023 年度は少なかった事と、廃ガム・廃アルカリなど廃液類を無処理版への移行により大きく削減できたことが、トータルの廃棄物量の削減に繋がった要因と考えます。

2024 年度の坂戸事業所の目標は、「産業廃棄物量を前年度比 10%削減する」として、引き続き目標達成に向け活動していきます。

- 削減への主な取組
 - ・ 金属類（インキ・溶剤の空き缶）の有価処理の継続。
 - ・ プラケース有価処理対応。
 - ・ 廃プラスチック類と紙類の分別化促進→リサイクル原料として再利用化。
 - ・ 分別処理の強化

【本 社】 未達成

- 実績：10.3%増加

	2023 年度 kg	2022 年度 kg	増減%
一般廃棄物（可燃ゴミ）	4, 5 1 0	3, 2 5 0	+38.8
廃プラ類（不燃ゴミ）	2, 7 8 0	3, 3 6 0	-17.3
全 体	7, 2 9 0	6, 6 1 0	+10.3

本社の廃棄物は事業系一般廃棄物（可燃ゴミ）と廃プラ類（不燃ゴミ）です。古紙は 100%リサイクル、飲料缶は 100%ベンダー回収ですので廃棄物として扱っていません。

初めて 2023 年度から前年度対比での増減を数値化したところ 10.3%の増加となり、目標未達となりました。本社から排出する可燃ゴミと不燃ゴミの種類は次のとおりです。

■可燃ゴミー汚れのついた紙、濡れた紙、防水加工された紙（紙コップ・カップ麺容器）臭いの付いた紙、感熱紙、圧着はがき、シール紙、印画紙など

■不燃ゴミーコンビニ弁当がら、コンビニ袋、プラスチックファイル、クリアファイル、各種金属くずなど

古紙と可燃ゴミの分別は難しい時がありますが、分別を徹底し廃棄物の減量に取り組み、**本社の 2024 年度の目標は「事業系一般廃棄物を前年度比 5%削減」とします。**

(3) 水使用量（水資源の無駄な使用の抑制。用いた数値は暦年対比 2023 年 1 月～12 月）

- 実績：43.9%増加 対比期間：2022 年 1 月～12 月

<年間使用量> 単位：m3

	2023 年	2022 年	増減%
本 社	9 5 8	8 7 0	+10.1
坂戸事業所	1, 9 1 1	1, 1 2 4	+70.0
全 体	2, 8 6 9	1, 9 9 4	+43.9

当社の事業活動は水を大量に消費するものではなく生活用水(上下水道)の使用が殆どです。印刷に用いる“湿し水”には“湿し水濾過循環装置(Regain や BS1)”を導入し、印刷品質安定化とともに水使用量の抑制に継続的に取り組んでいますが、本社・坂戸事業所とも目標を具体的な数値にして水資源削減に取り組んではいません。2023 年の実績では前年対比で使用量は全社で 43.9%増加しました。坂戸事業所で大きく増加した理由は、防火水槽の劣化による漏水は応急措置を経て 2023 年 7 月に改修工事を行いました。その後今度は別箇所の配管の劣化による少量の漏水が発見されました。修繕は施しましたが、水道料金の請求は隔月なので漏水に気づくのが遅れたことが一つの要因と考えます。また、天候による冬場の湿度低下が激しかったことにより、加湿器の稼働が多かった事も要因と考えられます。

当活動については **2024 年度目標**も「例年実績を維持する」を継続します。

(4) 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価、並びに違反、訴訟の有無

環境関連法規等	適用事項(事業活動、施設、物質等)	遵守状況の確認
廃掃法	廃アルカリ・廃酸・廃油・廃プラスチック等	マニフェスト管理、運搬・処理委託契約
騒音・振動規制法	印刷機4台	工業専用地域
下水道法	廃アルカリ・廃酸・廃油等	マニフェスト管理、運搬・処理委託契約
有機溶剤予防規則	印刷溶剤、クリーナー等	有機溶剤作業主任者選定・講習受講済み。リサイクル原料処理。
PRTR法	IPA	PRTR非該当。
フロン排出抑制法	空調設備・印刷機循環水冷却装置	2016年度より定期的な点検を実施。
労働安全衛生法	化学物質リスクアセスメントの実施義務、結果の周知	業界団体の推奨アセスメントシートによる。

当社に適用される主な環境関連法規等は上記の通りです。現在に至るまで、上記と他の環境関連法規への違反も、近隣及び利害関係者からの苦情も、関係当局からの違反等の指摘・訴訟についてもありません。

(5) 化学物質使用量の継続把握

以前の環境 ISO14001 の取り組みを通じて、当社で使用する原材料・資材・副資材において PRTR 法指定物質に該当しその届出量に達しているものはないと判断し、化学物質の詳細な量的把握については行っておりませんでした。2022 年度から EA21 の活動を通じて、主に印刷工程で使用する洗浄剤等に含まれる化学物質使用量の把握に努めています。

追いかけている印刷工程で使用する洗浄剤等に含まれる特定化学物質の含有量は、次の表のとおり 2022 年度トータル 476.56Kg、2023 年度トータル 504.38Kg となっており、微増ではあるものの維持している状況を把握している。

化学物質名	2022年度含有量 (Kg)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
1, 2, 4-トリメチルベンゼン		2.53	5.06	2.53	2.53	5.06	2.53	2.53	5.06	2.53	5.06	2.53	37.94
ナフタレン		2.93	5.85	2.93	2.93	5.85	2.93	2.93	5.85	2.93	5.85	2.93	43.88
メチルクロヘキサン	30	22.5	22.5	37.5	22.5	37.5	37.5	22.5	45	37.5	45	22.5	382.5
1, 2, 4-トリメチルベンゼン	0.08		0.08		0.08	0.08		0.08	0.08		0.08		0.57
キシレン	0.81		0.81		0.81	0.81		0.81	0.81		0.81		5.67
1, 2, 4-トリメチルベンゼン			6										6

化学物質名	2023年度含有量 (Kg)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
1, 2, 4-トリメチルベンゼン	2.53	2.53	5.06	2.53	5.06	2.53	2.53	2.53	5.06		2.53	2.53	35.41
ナフタレン	2.93	2.93	5.85	2.93	5.85	2.93	2.93	2.93	5.85		2.93	2.93	40.95
メチルクロヘキサン	30	22.5	60	22.5	37.5	45	22.5	60	22.5	22.5	45	30	420
1, 2, 4-トリメチルベンゼン	0.08	0.08		0.08	0.08	0.16			0.08		0.08	0.08	0.73
キシレン	0.81	0.81		0.81	0.81	1.62			0.81		0.81	0.81	7.29
1, 2, 4-トリメチルベンゼン													0

(6) 不具合削減から撲滅へ「全社の損害金額を合計 80 万円以下に削減」：未達成

●2023 年度損害金額実績：3,106,918 円

2023 年度は前年度に引続き「全社の損害金額 80 万円以下」という目標でしたが、残念ながら損害金額合計は約 2.9 倍に増加し目標達成は出来ませんでした。本社 2 部門で 470 千円、坂戸事業所 4 部門で 2,637 千円の損害金が発生してしまいました。2022 年度に対前年度比で損害金額を半減させた良い流れを維持することができませんでした。

2024 年度の目標は 2023 年度目標の 80 万円以下（顧客クレームゼロ）を継続し、強い危機感を持って全部門が「不具合未然防止」の行動を徹底し、目標達成を目指します。

7. 経営者による見直し

2023 年度のマネジメントレビューに於ける社長からの指示について。

(1) CO₂排出量・産業廃棄物量の削減

前回マネジメントレビューで示した『作業時間及び予備枚数削減の目標について、現場に数値化されたデータを作成し明示すること。』という指示について、引続きより分かり易い数値（時間当たり、通し 1 枚あたりなど）で示すことにより、オペレーターが把握し易い目標値による管理を進めて欲しい。

以前印刷機メーカーの協力で算出した印刷機の通しあたりの電力消費量や、現在加盟しているサステナブル印刷協会で作成したカーボンオフセットの計算式計算式などと連携し、会社として外部へアピールできる指標ができると良い。

本社側の目標としてはペーパーレス化への取組みを進め、坂戸事業所側への指示や情報共有などもファクシミリや紙ではなく、モニター等で相互に確認・管理が行えるようなことを進めていきたい。

(2) その他の要素

- ・次回更新審査時に本社も審査対象に広げること。
- ・坂戸事業所の職場内にミーティングスペースを確保し、オペレーターが最小限の移動で打合せが行える環境作りを進めて、「時間の有効活用」を考えて欲しい。

以上